

## 出戸西方断層の北端・南端のデータ拡充に係る地質調査の実施について（概要）

## 【調査実施の経緯】

当社は、出戸西方断層について、これまでボーリング調査やトレンチ調査等を行い、当該断層の長さが11kmであること、当該断層の南側の地下の向斜構造は古い構造であり、当該断層と一連の構造ではないこと、東京大学出版会が発行している「活断層詳細デジタルマップ[新編]（2018）」※1で図示された出戸西方断層帯は、当社の地震動評価に影響を及ぼさないことをこれまでの審査会合でご説明し、妥当との評価をいただいております。

今回、3月29日の審査会合において、改めて当該デジタルマップが示す北側の調査と、南側の地下の向斜構造のデータ拡充を求められたことから、この出戸西方断層帯周辺の北側と南側のボーリング調査および地表地質調査を行うこととしました。必要なデータを入手し次第、取りまとめ、審査会合で説明してまいります。

今回の調査により得られるデータに従来のデータを合わせて整理・評価することにより、審査会合での説明性の向上に努め、審査を円滑に進めてまいります。

※1：活断層詳細デジタルマップ[新編]（2018）

活断層に関する情報を日本列島全域にわたり、デジタル化したもの。初版の2002年以降の情報を反映し、一般財団法人 東京大学出版会が発行している。同出版会は「新編 日本の活断層」（1991）等を刊行している。

## 【地質調査内容】

## ①既存のデータの整理

- これまで採取した出戸西方断層の北端・南端のデータの整理

## ②ボーリング調査

「活断層詳細デジタルマップ[新編]（2018）」が示す「出戸西方断層帯」の北側を対象に断層の存否に係る調査を実施する。

- ボーリング調査（地層の堆積状況を確認）約50本程度
- ボーリングにて採取した柱状試料（コア）を用いた火山灰分析ほか

## ③地表地質調査

出戸西方断層の南側に位置する地下の向斜構造※2の活動性に係る調査を実施する。

- 向斜構造周辺の地層の堆積状況、向斜構造の活動性を否定している地層の地質年代測定（試料採取用のボーリング 約5本程度を含む）

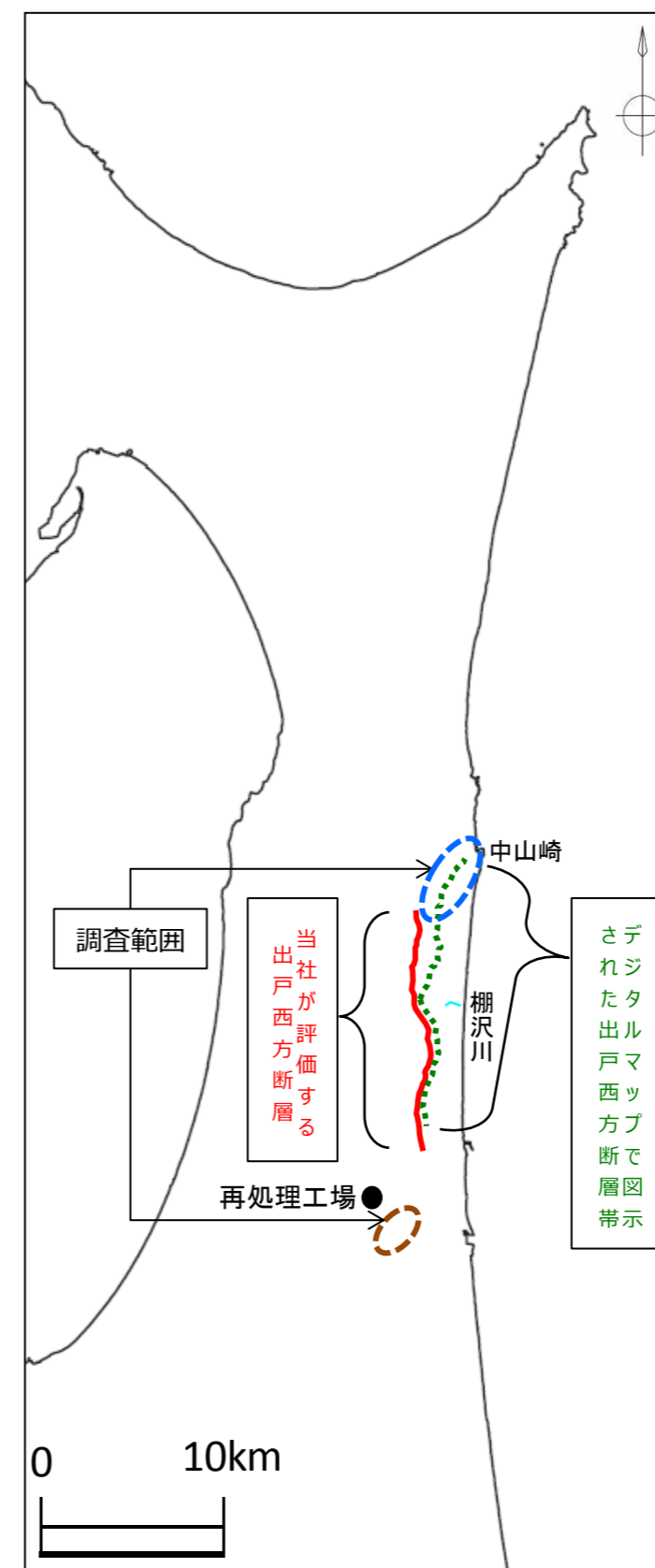
※2：向斜構造

褶曲構造（地層が横方向から圧縮を受け、波形に変形する状態）のうち、盛り上がった山の部分を「背斜」、沈んだ谷の部分を「向斜」といい、曲がった谷の部分の状態を「向斜構造」という。

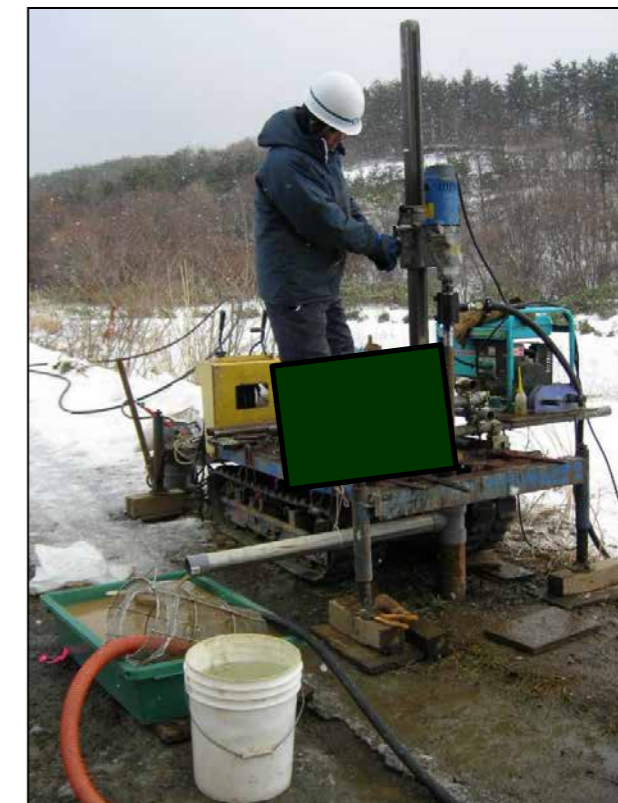
## 【調査期間】

調査箇所確定・手続後、1～2ヶ月程度（評価を含む）

※調査については、効率的に作業を進め、期間の短縮に努めます。



【調査位置図（概略）】



簡易ボーリング（イメージ）